１．個人データ

職名：助教　　氏名：巽 一樹　　学位：博士（経済学）e-mail:tatsumi @kobe-kosen.ac.jp

２．教育・研究テーマ

【経済成長と生産技術に関する研究】

本研究の目的は、AI 技術の進展、ロボットによる生産の自動化が経済成長、所得格差にどのような効果を及ぼすのか明らかにすることにある。ロボットと労働の代替関係及び補完関係に着目し、格差の要因、格差が経済成長に及ぼす効果を分析する。

近年、AI 技術の進展、ロボットによる生産の自動化が急速に進んでいる。ロボットの労働を導入することによって、急速な生産性の上昇が期待できる。例えば、自動運転車は過酷な労働環境にあるバスやタクシーの運転手不足を解消し、人々の移動をますます便利なものにする。また、家庭の自動ゴミ拾い機により、面倒なゴミ掃除の負担を軽減し、これまで掃除を行っていた多くの時間を余暇に使うことができる。

しかし、ロボットは大量の雇用を奪う可能性がある。タクシーやバスの運転手、オペレーター、単純労働者の多くはロボットによって、雇用を置き換えられる可能性がある。この場合、大量の失業が発生し、ロボットによって代替関係にある労働者とロボットと補完関係にある労働者の間に所得格差が生じる可能性がある。

と経済に対して、負の効果も与える可能性がある。それはロボットによる労働を導入することによって、急激な生産性の上昇が期待できる。をにおける資本と労働の代替関係及び補完関係に着目し、資本家と労働者、労働者間の格差の要因について研究を行なっている。第二に、経済成長と少子高齢化に関する研究である。年金制度の維持可能性、高齢者の労働の経済成長との関連について研究を行なっている。

【経済成長と少子高齢化に関する研究】

本研究の目的は、少子高齢社会における年金政策が、経済成長、出生率、年金給付にどのような効果を及ぼすのか明らかにすることにある。日本やイタリアのデータを用いて、経済成長率、出生率、年金給付などのシミュレーションを行っている。

日本、ドイツ、イタリアをはじめとした先進国では、超高齢社会に到来している。その原因は、長寿化と出生率の低下である。これらには、賦課方式年金制度の維持の危険性がある。年金制度は、若い世代に課税を行い、高齢者に年金給付を行う制度であるため、若年者が高齢者を支える制度となっている。少子高齢化は、若年者の負担を大きくする。既に日本では、若年者 2 人が、高齢者 1 人を支えるという社会が到来しており、2050 年には、1.4 人の若年者が高齢者を支えるものとなると予測されている。

上記の年金制度の維持可能性から、先進諸国では、育児手当、高齢者の延長雇用をはじめとした政策が行われている。しかし、これらには、少子化を加速してしまうや経済成長を阻害する可能性もあり、少子高齢化や年金制度の維持のための政策については今後の検討の余地があるといえる。

３．その他のデータ

（１）教育・研究技術相談可能分野

・日本経済、兵庫県経済
・生産技術とマクロ経済
・少子高齢社会

（２）出前講義・公開講座・講演可能テーマ

・日本経済、兵庫県経済の行方
・社会保障と政策シミュレーション
・少子高齢社会における経済政策のあり方

（３）キーワード

・経済成長、技術進歩、社会保障、高齢化